

平成29年度「留辺薬まちづくり協議会」(第11回)会議録要旨

◎ 日時	開催日時 平成30年3月8日(木) 16:30~19:25
◎ 場所	留辺薬小学校・留辺薬町公民館 1階 小ホール
◎ 出席者	協議会： 11名(横田会長、稲村副会長、荒委員、石田委員、菊池委員、木幡委員、坂口委員、高野委員、武田委員、野瀬委員、古川委員)  北見市： 五十嵐自治区長 安井留辺薬教育事務所長 伊藤企画財政部主幹  事務局： 飯塚留辺薬総合支所長 奥原留辺薬総合支所 総務課長 今野留辺薬総合支所 総務課地域振興係長 村田留辺薬総合支所 総務課地域振興係  傍聴者： 無し

【 留辺薬小学校新校舎視察 】(16:30)

開 会

- 事務局 (総務課長) 開 会(18:00)  
皆さま、あらためましてお晩でございます。留辺薬小学校の新校舎視察に引き続き、会議を行います。  
それでは、横田会長からご挨拶をいただきます。
- 横田会長  
お晩でございます。今日は企画財政部から伊藤主幹にお越しいただいております。第2期北見市総合計画基本構想(案)について、ご報告をいただくこととなっておりますので、よろしく願います。
- 事務局 (総務課長)  
それでは、これからの進行につきましては、横田会長にお願いいたします。

横田会長                    それでは、五十嵐自治区長よりご挨拶をいただきます。

五十嵐自治区長            あらためましてお晩でございます。2月14日に始まりました第1回定例会市議会も無事終了いたしました。来年の予算が決まりましたので、担当の方では4月1日に向けて事務を進めているところでございます。

今日は実施計画の説明がありますので、後でご質問等をお受けしたいと思えます。よろしく願いいたします。

さて、ご存知のとおり、ロコ・ソラーレ北見がオリンピックで銅メダルをとったということで、昨日は夕方からずっとニュースでやっていました。もうあれだけやっていたら、全国的に北見の宣伝になったのかなと思います。

せっかくだったら、白花豆の白花美人を持って行ってもらうとか、色んなものを持って行ってもらうとかがあったのかなと思ったりしたんですけども、今後もあるようですから、そうなった時には是非持って行ってもらいたいなと思います。

何はともあれ、3月21日に、北見市内をパレードと報告会をするということで、皆さん、お時間がありましたら、是非、参加していただきたいと思えます。

今日はどうぞよろしく願いいたします。

## 報 告

### 「 会議の成立について 」

横田会長                    それでは、事務局の方から会議の成立について報告してください。

事務局  
（地域振興係長）            本日の出席委員数は、15名中11名であります。北見市自治区設置条例第7条第3項の規定に基づき、半数以上の出席がありますので、本日の会議が成立いたしますことをご報告申し上げます。

なお、大江委員、山梨委員、千田委員、山久委員におかれましては、所用のため欠席される旨、ご連絡をいただいておりますので、併せてご報告申し上げます。

横田会長                    本日の会議につきましては、概ね午後7時半ごろを目途に終えたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

## 議 題

### 「 （2）第2期北見市総合計画基本構想（案）について（報告） 」

横田会長                    それでは、次第の『2. 議題等』に入ります。

（2）「第2期北見市総合計画基本構想（案）について」、今日、企画財政部から伊藤主幹に来ていただいておりますので、伊藤主幹から説明をしていただきたいと思えます。

伊藤企画財政部主幹

### 「 企画財政部主幹 説明 」

横田会長

ただいま、伊藤主幹から説明がありました。今回の総合計画については、私も審議会委員として参加していますが、会長が北見工業大学の高橋学長、副会長は商工会議所の永田会頭ということで協議しております。今回はいろいろな審議会、委員会と若干違ったのは、参加、出席した人に、必ず一言を話してもらおうということです。

一言話をしてもらったものを議事録に載せて、それを基にして次の回の中でいろいろと話をさせていただくということで、参加した人が無言で帰るということはありません。そんなことで、今回進めてきました。

今、伊藤主幹からいろいろ説明をいただきましたが、特に留辺蘂自治区の場合は、人口減少が著しく、高齢化率も高いということもあって、この木・湯・人のぬくもりというのが、私たち留辺蘂自治区にとっては妥当なものなのかなという疑問があったんです。

行政側も十分にこれらについては議論をした上で、最終的にこういう目指す方向性を示したということでしたので、これを基にして私の方も、留辺蘂の今後のコンパクトシティをメインとしたものを頭に描きながら、意見を述べてきました。

そんなことも含めまして、皆さんの方からご意見、ご要望等があれば出させていただきたいと思います。

菊池委員

平成30年2月に基本構想（案）のパブリックコメントというのをやっているんですけど、これは何人集まったんですか。いつもパブリックコメントは少ないんですけど、今回は多かったですか。

伊藤企画財政部主幹

パブリックコメントの公募は3月16日までとしておりますが、現在、私どもに来ている意見というのは無いところです。

ただ、これから、パブリックコメントの後半に意見が集中してくるかと思しますので、もし、皆さんも、資料1-2の方の基本構想（案）をじっくり見ていただいて、意見があればどしどしパブリックコメントを寄せていただきたいと思います。

菊池委員

パブリックコメントをやるのはいいんだけど、ただやったという実績だけで、内容が伴わない場合が多いんだよね。

だから、是非、今度は、実のあるパブリックコメントにしてもらいたいんです。都市計画の時に出了ましたが、3人~4人なんですよ。

荒委員

4人ならいいけど、1人だけということがあるから。

菊池委員 　　だから、北見市にちょっと影響力のある人達にちょっと声をかけて是非出てくださいという願いをしないと、なかなか出てこないと思うんだけど、そのあたりは伊藤主幹どうですか。

伊藤企画財政部主幹 　　総合計画については、全市、全分野に係わる計画ですので、我々も大変重要であり、慎重に審議会の方でもご議論していただいているところです。

　　今回、基本構想（案）をまとめたことによりまして、やはり多くの市民に基本構想（案）を知っていただいて、内容を十分理解した中で、今後の10年間のまちづくりを市民と行政が一体となって進めていきたいということも考えておりますので、その為にも、明後日行いますまちづくりシンポジウムで多くの皆さんに参加していただいて、その考え方ですとか、今後のまちづくりのあり方というのはどうなのがいいのかということとを共有しながら進めたいと思います。今週道新の広告欄に2回ほど大きくシンポジウムの広告も載せていただいたこともありますし、我々としても広く市民に、この基本構想（案）を知っていただき、いろいろなご意見をいただいて、当然構成の中では、実現可能なものと不可能なものがあるんですけども、より多くの方がまちづくりを考える機会ですとか、まちづくりの考え方、方向性を北見はどうなっていくのかなというところに参画していただいて、市民と一緒に計画をつくって、共に納得して共有しながら、今後のまちづくりを一緒に進めていきたいという考えでおりますので、我々も周知に努めますし、皆さんもお知り合いの方がおりましたら、どんどん広めていただければなというふうに思います。

菊池委員 　　市民がそういうことを広告などで周知してもあまり目に留めてくれないという現実があると思います。

　　それを何とかお知らせする方法を市も考えないと、ただやりましたというだけで、3人～4人だったらどうしようもないから、是非お願いしたいと思います。

五十嵐自治区長 　　難しいですよ。それじゃなきゃいいかという、そうはならない。

菊池委員 　　やった実績だけじゃ駄目なんですよ。

五十嵐自治区長 　　でも、実際は、市民の方から意見をもらう機会なんですから、言いたい方はどんどんやっていただきたいんですけども、荒さんも前にやって1人と言っていましたけど、なかなか出てこないんですね。でもやらなきゃ駄目なんです。

菊池委員 　　それに関して市民の理解度が少ないんでしょう。

五十嵐自治区長 　　昔はこういう審議会にしても、色んなジャンルの方が集まっていたって、情報共有をしていました。

　　それを市民の方にこういう計画ができましたよとお知らせして、色んなご意見をいただくというのがパブリックコメントです。

市の計画をつくるにあたっての手続きですから、必ず審議会みたいな委員会があって、出来上がったものにパブリックコメントでご意見をいただくという手続きの流れで進んでいますから、それに意見を書くか、要望を書くかというのは、その件数が少ないと言われても市の方としてはどうしようもないんです。

横田会長

今回は特に、皆さんは一言を言っているんですね。特に旧3町と北見市の人は思いとか、考え方だとか、これからのまちづくりということ自体がちょっと違うので、なかなかそのあたりの整合性をとるとというのは非常に難しいことは確かにあるんです。

だけど、旧3町は旧3町ゆえの思いというのは、かなりありますから、その意味で、今、菊池さんが言ったけれども、大体伊藤さんには伝わったと思うんです。

今回は、特に今までと違って、見やすく、難しい言葉は使わないということで、どなたが見ても分かりやすいように作っていますので、今までとはちょっと違ったものができるんじゃないかなというふうに思います。

荒委員

パブリックコメントについて言わせてもらえば、ページ数が多いですから、ネットで見るというのは大変なんですよ。

総合支所のどこどこに置いてありますよということなんですけど、それは、総合支所でしか見られないということですよ。

ですから、私の希望は、何日間か貸してもらえるという形をとってもらわないと、なかなか総合支所の時間帯で全部見れるかといったら厳しいわけですよ。

私は、パブリックコメントを出すことが多いので、総合支所から貸し出してもらって、家に帰ってゆっくり見れるということをやってもらって、すごくいいなと思います。

横田会長

それは可能ですよね。

荒委員

先ほど言われた人口減少ということが、これはどこでもそうですが、この10年間のシュミレーションが無いんですよ。

だから、大体こういう予想を基に、こういう計画を考えたんだというのがないと、非常に理解しづらいと思います。

ですから、こういうもっと市民に分かってもらうためには、これを理解するために、人口の推移というか、それが土台で、特にこの10年間というのは、色んな課題が沢山あるわけですよ。

人口減少はあくまでも予想しかできないわけだけど、こういうような前提で考えられているんだということが、私は絶対必要だと思っています。

それが無いので、どうなんだろうかと思ったものだから、先ず、前提としてそれがほしいと。いろいろな角度から考えられているのは分かっています。だけど、現実には人口減少になっていくと、色んな問題が起きているわけですよ。

例をあげますと、高校はどうなるんだと。

今度、大学だって危ない時代に入ってくるわけでしょう。それが抜けているというのは、非常に不十分だということを率直に思っているんですよ。そういうことを先ず1つ言いたい。

これから予想される課題に対しても、対応はどうかという部分が整合性が合うとか、十分かどうかという議論の前提が共通にならないんじゃないかなというのを率直に感じたんです。

そういうことで是非、そういうことを加えた上で出していきたいというのが私の意見です。

伊藤企画財政部主幹

今、人口減少の推計値といいますか、そこを見定めないと総合計画としてどうなんだというご意見かと思えます。

総合計画審議会の中でも第2回目に、北見市の人口推計ということで、我々は、2060年まで、平成27年まで人口推計を出して、総合計画審議会にお示しをさせていただいております。

2年前に、地方創生総合戦略の中でも、北見市の人口ビジョンというのをつくっておりますけど、その更なる平成27年の国勢調査の数字が出ましたので、置き換えて、今回総合計画の人口推計として、2060年まで人口推計値を出させていただいております。その中身としましては、約40年後ですけど、ずっと人口が減っていくという推計値で、何人何人というのも出ております。

ただ、今の概要版と基本構想版には載せていないんですけど、その推計値を基に審議会の中で、構想案が審議されてきているということです。

現総合計画の中でも、北見市の10年先の人口推計値といいますか、人口指標というのを持っています。現在の総合計画の人口指標は、平成30年度に11万8千人を人口推計値として後期基本計画でもっております。

今、北見市の人口が11万8千何百人ですので、ほぼ計画どおりに推移しているというところがございます。

平成30年度に策定します、前期基本計画の中で、北見市の10年先の人口推計指標を、ここで議論させていただいて、向こう10年先の平成40年の北見市の人口は、何万人の目標にしましょうというか、人口推計値にしましょうということを決めていく予定でございます。

その中では、記載として人口推計値がこうであって、目標値はここに置きますというのを計画書の中で示していきたいと思っております。

五十嵐自治区長

人口問題研究所でいくと、40年に8万7千人になるんですね。地方創生総合戦略の中で、黙っていればそうなるので、出生率を増やしていこうとか、子育てのしやすいまちにして若者を呼ぼうとか、そういう戦略を組んで、9万7千人にしようという目標なんですよ。

だから、8万7千人のデータを出すのは別に問題はないんですけど、あくまでも計画は、黙っていれば減っていくというのを、どうにかこの計画に基づいて、この人口にしようという、多分これがこれから審議会で議論されて、目標値をどこに置

くかということになるんですね。

今のデータは、人口問題研究所で出すデータしかないんですよ。

菊池委員

その施策に関しては、増える要素で北見市が今いる若い世代に子どもを産むための補助が必要だとか、オランダみたいに、少し出して楽な生活ができるようにするとか、そういう方向性をしない限り、今のままで増やすなんてことは絶対できないと思います。

五十嵐自治区長

おっしゃるとおりで、そのことを計画の中で子どもを産む人数を増やしていくとか、いうならば、若者が住んでもらうまちにして、ちゃんと結婚できて、生活できて、子どもが産まれるというそういう社会をつくっていかうということ。それを目指しながら計画をつくるということです。

菊池委員

東川町に行った時に、どうしてこんなに若い人が多いのかと。やっぱり東川町がそれだけお金をかけているわけだね。

だから、そのことが、北見市もそろそろやらないと無理だと思うんですよ。働く場所がないことに関して、子どもを持ちたいけど、収入が少ないとかがあるから、そのへんのことは北見市が何とか、企業創出をつくるようなものがない限り、今のままでは絶対に無理だと思うんだけど、その件で何かあったら教えてください。

伊藤企画財政部主幹

今、自治区長が言われたとおり、人口の推計としましては、例えば10年先北見市は10万人になりますと。だけど、北見市の目指すところは、今のままでは10万人ですけど、そこに子育て支援ですとか、学校を建てるとか、働く環境をつくっていくとか、若者の就職先を何とか促進していくとかという施策を打って、10年先、10万5千人を目指しましょうと。

そのためには、それぞれの分野での施策はどのようなものが必要なのかというのを、前期基本計画ですとか、個別の具体的な計画の中でうたいながら、毎年やる実施計画に位置付けて展開していくというのが、まちづくりのあり方だというふうに思っていますし、そこが根幹になってくると思います。

ただ、この人口減少というのは、全国で起きておりますので、大変厳しいものがあるというふうには思っています。

北見市の中で、10万人規模で子育て施策というのは、色んなものがありますけども、例えば、東川町でいえば、外国人の若い人の学校をつくって、そこに来てもらったり、旭川市のベットタウンとして、子育て支援、乳幼児医療、子ども医療費を無償化して、旭川市の若い世代を取り込んでいくというのも1つのまちづくりの戦略だと思います。

北見市がこのオホーツク圏の中核都市として、どこまでできるのか、どこまでそこにお金をかけられるのか、それとも違う分野でお金をかけていくかというのが、それぞれの実施計画なり、各分野での議論の中全体の北見市を見定めて展開していくということになっていくのだろうというふうに思っていますけど、やっぱり10

年先のこういう姿になりたいという北見市の姿を、ビジョンを見せて、各分野がそこに向かって行くというのが、総合計画のあり方だと思いますので、今、菊池委員が言われますように、子育てに重視を置くのか、色んな分野に置くのかというのは、これからの議論になっていくのかなというふうに思っております。

荒委員 結局、総合計画は、こういう北見市を目指しますということなので、このままいったら、これぐらい減るから、それを少しでも歯止めをかけて、活力ある地域にするためにとか何かをするために、こういうことを考えているんだという方が、市民にとっては分かりやすいと私は思います。

横田会長 基本的には、今年の5月ぐらいから、今度はより具体的な前期の計画が入ってきますので、その時にこの次のまち協でどなたかが行って話をしてくると思うんですけども、そこで具体的なものが、これから言う機会が出てきますから、そのものを含めて、是非シンポジウムに行って質問してもらった方が、より良いかなと思います。

五十嵐自治区長 荒さんが言うとおりで、今のデータの的には、先ほど言った8万7千人のデータしかないんです。  
でも、それをどこまでなだらかにするとか、そのために、それを今審議しながらやっていこうということです。

菊池委員 若い世代に審議会とか、そういうのに出てもらえるようにしたら。

五十嵐自治区長 11ページを見てほしいんですけど。中高生のアンケートなんですけど、11ページのグラフのいずれ市外へ出たい、すぐにでも市外へ出たいというのが1番ですけど。  
上にある一度市を出て帰って来たい、住みたいという人もいますけど。

稲村副会長 数値はいいですよ。本当かなと思うぐらい数値はいいんです。

五十嵐自治区長 半分ぐらいは住み続けたいと思っているんです。この子達をどうやって戻してやるかということが。

稲村副会長 それに應える方法がないと。

菊池委員 審議会に出ても、年配の人ばかりで、若い人の世代が少ないんだよね。

五十嵐自治区長 そこそこの代表の方が皆さんご高齢の方ばかりなので。



横田会長 15ページに、キャンパスミーティングというのがあって、北見市の全体について、大学生がいろいろと言っているんですよ。

だから、審議会に来なくても、こういう意見を基にして皆議論するんですよ。

だから、決して若い人が出る出ないでなくて、キャンパスミーティングのようなものが、どんどん出てくることに意義があるんですよ。

菊池委員 そういう具合に持っていけるならいいけど。審議会の中で廃棄物もやっているし、景観条例も出ているんだけど、特に、交通に関しては、北見市の案を委員が誰も喋らないんです。黙って通過して読んで終わりなんです。

五十嵐自治区長 言わないからですよ。やっぱり先ほど言った、一言喋ろうというそういう決めでやらないと。

横田会長 総合計画から、伊藤主幹や企画財政部長を中心に、1人一言きちんと話すよということになっています。

そういうことで、取り敢えず進めさせていただきますが、私たちからまた何か提起があれば、伊藤主幹に連絡をいたします。

伊藤主幹、どうもありがとうございました。

..... 伊藤主幹退席 .....

## 議 題

「 (3) 第10次実施計画等について (報告) 」

横田会長 続きまして、(3)「第10次実施計画等について」事務局の方から説明をしていただきます。

事務局 「 総務課地域振興係長 説明 」  
(地域振興係長)

## 質疑・意見

横田会長 ただいま、事務局から、第10次の実施計画についての説明がありました。  
平成30年度予算の具体的なものについては、話がありましたように、4月の段階で担当課長が来て説明をすることになっておりますので、そこで具体的な項目について皆さんの方から質問等があれば受けたいと思います。

菊池委員 瑞穂の学校の件は全部不採択なんですね。

安井教育事務所長 不採択というよりは、学校に関しては、総合支所の予算ではなくて、学校教育部直結の本庁予算なんです。それで、うちの方からはこうしてほしいというふうに要

望はあげるんですけれども、ただ、北見市全体としてどうするかということを考えていかなければならないものですから。

例えば、校舎の撤去工事とかにしても、仁頃だったりとか、端野だったりとか、他の学校もまだまだ廃校になったまま壊していない所がまだありますよね。いっぺんに沢山のことをやるということもできないですし、要望があったからといって瑞穂を1番最初にするということもできないのが現実なんですよ。

それで、うちの方から要望はあげましたけれども、本庁から実施計画の要望としてあげたのは、うちでない学校だったという残念な感じです。

菊池委員 予算がついて解体するようなことをやっている学校はあるんですか。

安井教育事務所長 今年、前年、仁頃高校の撤去設計をやりまして、仁頃高校の解体工事がついているんですね。

菊池委員 仁頃高校の所管は北海道ではないのですか。

五十嵐自治区長 北見市です。

安井教育事務所長 それで、今年は、仁頃高校の撤去費用が付いているんです。撤去費用については、単費で補助金がないので、持ち出しが100%北見市の税金からとなりますからね。なかなかやりたくてもやれないという現実があるんですよ。

なので、瑞穂小中学校についても、なるべく早期に壊してほしいという住民からの要望があったんですが、今しばらくお待ちください。

五十嵐自治区長 中期財政計画というのは、これは、平成34年度までの北見市の財政状況で、前も後ろもたくさん書いてあるんですが、11ページに全てまとめられています。

収入があったり、支出があったり目的別にいろいろ出ていますけど、1番最後に31年度が、4億4,200万円、32年度が4億4,100万円とか、大体4億5,000万円ぐらいの赤字になるだろうという。そういう予想です。

それじゃあ、それをどうしようかというのが、次のページから対処方策ということで、こういうことをやりながら赤字を埋めていきますよというふうになっています。当然、赤字ですので、先ほども言いました学校の解体にしてもなかなか手をつけられないということです。

安井教育事務所長 仁頃高校は今年は、5,800万円。計画の時も1,000万円近くかかっているんです。

横田会長 補助はありません。

五十嵐自治区長 税金でやるしかないんです。

すぐではないですけど、将来的にはやっていかないということになりますから。

稲村副会長            まだ、これは34年だからいいけど、その後が問題ですよ。

五十嵐自治区長        意外と、32年に交付税の段階が終わるから、33年度からが大体目安になるのかなと。交付税の見直しもあって、その時には行政経費がかかるよねとって、減るのが少なくなったりと、いろいろ補正の数字があって意外と減らなかったのです。

今度20億円減るんじゃないかと言っていたんですけど、この程度の赤字で済んでいるんです。赤字を、この前を見てもらえば分かりますけど、29年度は15億3,700万円の基金を取り崩しているんですよ。

来年度は4億5千万円ですけど、これの基金を取り崩さないといけないんじゃないかという、そういう状態なんです。将来的にこれを埋めていくのは、全部基金を取り崩すというふうになると、やはり対処方針の中で、厳しい状況です。

横田会長                そうすることで、じっくりと自宅で見えていただいて、今度の4月の第1回目の時に出すと思います。

#### その他

横田会長                その他として、先般、30年3月5日付けで、北見市都市建設部から留辺薬まちづくり協議会に対して、北見市都市計画マスタープラン策定委員会の委員1名の推薦依頼がありました。

つきましては、当初4月ということでしたので、運営委員会でも話をしていたのですけれども、3月20日までに推薦をしななければならないということになりました。

急ではありますけども、北見市都市計画マスタープラン策定委員会の委員を皆さん方で推薦をしていただければいいかなと思っております。

どのように推薦するか、皆さまのご意見をいただきたいと思います。これは2年ということ、どなたか推薦があればご意見を伺いたいなと思っております。こちらの方に任せてもらえますか。

それでは、私の判断で、公共施設マネジメントの関係もありますし、これからのまちづくりをしていくために、市には非常に重要な策定ですので、公共施設マネジメント基本計画策定委員会委員をやった稲村副会長に、委員として推薦をしたいなということをお願いができればなと思っていますが、よろしいですか。

「 異議なし 」の声あり

横田会長                ありがとうございました。稲村さんよろしく申し上げます。  
あと、皆さんの方から何かご意見等ありませんか。

高野委員 菊池さんに質問だったんですけど、瑞穂小中学校解体ということで、あそこは後で利用するという予定はないんですか。ただ解体だけで終わるんですか。

菊池委員 今、考えているんですけど、あそこが終わったら、もう全部学校は板を張って進入禁止にしてしまうらしいんです。

それで、改善センターを少し改築して、そこで運動でも何かやるようにできないかということで出したんですけど、今回は不採択ということでした。

安井教育事務所長 一応、瑞穂地域を考える会という地域の方々のメンバーがいろいろPTAから自治会の方からノーマライ委員会をやっている方々とかが集まっていた中で、いろいろな閉校にかかって議論をさせていただいた結果、体育館については、維持費もかかるので、もう地域としては使いませんという話になりました。

その後、それに替わるものとして、農村環境改善センターを改修して使いたいという要望がありまして、今、それに向けて計画等を策定しながらとり進めているところです。

担当は、産業課になりますけれども、そこが中心になって、その改善センターの改修ということになって今考えているところです。

五十嵐自治区長 昔は、改修は予算をつけてどんどんやれましたが、公共施設マネジメント計画の方針に基づいて、個別計画をたてなければならないんです。

菊池委員 体育館がまだ新しいから、あれを使ってどこか借りてくれる人がいればいいんじゃないかと自治区長に話をしたんですけど、それをいくらで貸すとか、買ってくれるとかというのは私等は分からないから、そういう企業があれば、皆さんからご紹介をいただければと思います。

横田会長 それでは、このあたりで終わります。事務局の方からお願いします。

事務局 (地域振興係長) それでは、今後のまちづくり協議会の開催予定ですが、平成30年度第1回ということで、4月の11日から18日の間に開催をさせていただく予定であります。中身につきましては、平成29年度のまちづくりパワー支援補助金の事業報告と、平成30年度の留辺蘂自治区関係の予算を担当課長から説明をさせていただく予定です。

第2回の協議会につきましても、4月の最終週、23日から27日、この間で開催させていただく予定であります。中身については、平成30年度のまちづくりパワー支援補助金の事業採択について実施する予定であります。

閉 会

横田会長

　　ということで、第11回目のまちづくり協議会は終了いたします。  
委員の皆様、大変お疲れ様でありました。

　　以上のとおり、まちづくり協議会（第11回）を終了した。

（19：25 終了）